

令和5年度

第二学年 年間授業計画



東京都立本所工科高等学校

TOKYO METROPOLITAN HONJO TECHNICAL HIGH SCHOOL PART-TIME SCHOOLING SYSTEM COURSE

目次

現代の国語.....	2
言語文化.....	9
数学 I.....	16
英語コミュニケーション I.....	20
科学と人間生活.....	25
体育.....	27
保健.....	30
家庭基礎.....	32
機械製図.....	34
機械実習.....	36
電気回路(電気類型).....	38
電気実習.....	42
電気回路(電子類型).....	45
電子回路.....	48
電子実習.....	51
人間と社会.....	54

現代の国語

教科名	国語	科目名	現代の国語	単位数	1 単位
学年・類型	2 学年・総合技術科		担当教員		
使用教科書・教材	東京書籍「新編現代の国語」 とうほう「標準漢字演習」				

教科の目標 国語科 の目標

観点	a : 知識及び技能	b : 思考力・判断力・表現力	c : 学びに向かう力、人間性等
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 現代の国語 の目標

観点	a : 知識及び技能	b : 思考力・判断力・表現力	c : 学びに向かう力、人間性等
趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			話・聞	書	読	知	思	態		
1	<p>○「現代の国語」を学ぶにあたって</p> <p>【知】「現代の国語」を学ぶ目的をよく理解し、実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。</p> <p>【思】「現代の国語」で、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その内容を適切に相手に伝える表現力を身につける。</p> <p>【態】「現代の国語」を学ぶ目的を理解し、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につける。</p>	<p>1 「現代の国語」の目標を学び、授業の取り組み方や、持ち物、評価の観点等について理解する。</p> <p>2 自己紹介とこの授業での目標を発表させる。</p>	○			○	○	○	<p>【知】「現代の国語」を学ぶ目的をよく理解し、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。</p> <p>【思】「現代の国語」では、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その内容を適切に相手に伝える表現力を身につけている。</p> <p>【態】「現代の国語」を学ぶ目的を理解し、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につけている。</p>	1
	<p>○「水の東西」</p> <p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使えるようになる。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を 	<p>1 筆者の着眼点に注意しながら、本文を通読する。（手引き1）</p> <p>2 第一段での筆者の「鹿おどし」への思いを理解する。（手引き2）</p> <p>3 「鹿おどし」は、筆者にとってどのようなものであるかを理解する。（手引き3・4）</p> <p>4 筆者の考える「水の流れ・時の流れ」について理解する。（手引き5）</p> <p>5 第二段から、筆者の噴水に対する考え方を読み取る。（手引き6）</p> <p>6 筆者の着眼点への評価を客観化する。日本文化と西洋文化を具体例で比較して実感的に文化の差異を知り多文化共生とはどのようなものかを話し合う。（言</p>			○	○	○	○	<p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 	6

<p>豊かにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。 <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで筆者の気持ちの変化や考えを理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめ、話し合おうとする。 	<p>語活動 1・2)</p>	○						<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで筆者の気持ちの変化や考えを理解し、学習課題に沿って自分の考えをまとめ、話し合おうとしている。 	
<p>○「漢字の読み書き」</p> <p>【知】</p> <p>常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。 	<p>1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。</p> <p>2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。</p> <p>3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。</p>	○	○	○	○	○	○	<p>【知】</p> <p>常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。 	4

<p>2</p>	<p>○「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」</p> <p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深める。 <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。 <p>【態】</p> <p>粘り強く筆者の考える「想像力」を理解し、</p>	<p>1 本文を通読して、内容を把握する。(手引き1)</p> <p>2 「都市」の概念と現実・現状を理解する。(手引き2)</p> <p>3 「都市」において植物や鳥類・昆虫類等の生き物についての実見を発表させる。かなり都市化された状況でも無生物とはならないことを理解する。(手引き3)</p> <p>4 筆者の考える「都市」とはどのようなものか理解する。(手引き4)</p> <p>5 「都市」とそこで生きる植物との関係をつくることの意義について理解する。(手引き5)</p> <p>6 本文の内容を踏まえて、実際の生活における動植物環境との関わりを考え、話し合う。(言語活動) (考えよう……メディアとの付き合い方、グラフや写真の読み取り方)</p>	○	○	○	○	○	<p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 <p>【態】</p> <p>粘り強く筆者の考える「想像力」を理解し、学習課題に沿って実際の生活を見直し、情報社会における自己の在り方について考えを深め、話し合おうとしている。</p>	6
----------	--	--	---	---	---	---	---	--	---

<p>学習課題に沿って実際の生活を見直し、情報社会における自己の在り方について考えを深め、話し合うことができる。</p>									
<p>○「漢字の読み書き」 【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。</p>	<p>1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。 2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。 3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。</p>	○	○	○	○	○	○	<p>【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。</p>	4
<p>○「新聞記事を読んで意見文を書こう」 【知】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使えるようになる。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。 【思】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすることができる。 ・「書くこと」に</p>	<p>1 「学習の流れ」を読み、活動のポイントの見通しを持つ。 2 自分が扱うべき「新聞記事」の選定。どうして、その記事を選んだか。生徒自身の動機付け。ある程度、論理的に説明できること。 3 「新聞記事」の内容を分析する。具体的には5W1Hの確認。その後、最も中核化する内容を抽出する。 4 集めた基本的な情報をもとに、自分の経験や個性も踏まえ、最も中核化する内容についての発展化を図る。 5 自分がその対象を選んだ理由などを書き出す。 6 選んだ対象について、関係する書物など、詳しい情報を集める。 7 集めた情報を取捨選択し、読み手に自分の考えが伝わりやすくなる</p>	○	○	○	○	○	○	<p>【知】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 【思】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 ・「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 【主】 ・粘り強く自分の興味・関心のある対象について調べ、集めた情報の妥当性を検討しながら、学習の見通しをもって読み手の理解が</p>	4

	<p>において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。</p> <p>【主】 ・粘り強く自分の興味・関心のある対象について調べ、集めた情報の妥当性を検討しながら、学習の見通しをもって読み手の理解が得られるよう文章の構成や展開を工夫して書こうとする。</p>	<p>よう、書くための材料を決める。</p> <p>8 説得力のある文章になるよう構成を決め、大まかな字数の配分を考える。</p> <p>9 構成に沿って文章を書き、推敲をする。</p> <p>10 推敲した文章を清書する。班の中で互いの文章を読み合い、文章の内容や構成について意見交流を図る。</p>	○	○	○	○	○	<p>得られるよう文章の構成や展開を工夫して書こうとしている。</p>	
3	<p>○「りんごのほっぺ」</p> <p>【知】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解する。</p> <p>【思】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章</p>	<p>1 本文を通読する。(手引き1)</p> <p>2 第二次世界大戦・太平洋戦争や東京大空襲・沖縄戦・広島・長崎への原爆投下等、生徒各自の知識を整理する。第一段から「少年」に関わる説明や表現を抜き出し、ここでのそれぞれの意味を明らかにする。</p> <p>3 「少年」に対する筆者の思い・考えを理解する。(手引き2)</p> <p>4 「朗読劇」に関する筆者の思い・考えを整理して理解する。(手引き3・4)</p> <p>5 「戦争」に関する筆者の思い・考えを整理して理解する。(言語活動)</p> <p>6 この文章で筆者は、「美しさの発見」とはどのようなものであると述べているか、考えを述べ合う。(手引き5)</p>	○	○	○	○	○	<p>【知】 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。</p> <p>【思】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。</p> <p>【主】 ・粘り強く取り上げられた具体例の展開に注目しながら、筆者の「美しさの発見」についての価値</p>	6

<p>や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。</p> <p>【主】 ・粘り強く取り上げられた具体例の展開に注目しながら、筆者の「美しさの発見」についての価値観や主張を理解し、今までの学習を生かして「美しさ」を知るために必要な感受性の養い方について自分の考えを深め、話し合うことができる。</p>								<p>観や主張を理解し、今までの学習を生かして「美しさ」を知るために必要な感受性の養い方について自分の考えを深め、話し合おうとしている。</p>	
<p>○「漢字の読み書き」</p> <p>【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。</p>	<p>1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。</p> <p>2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。</p> <p>3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。</p>	○	○	○	○	○	○	<p>【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。</p>	4
評価方法	定期考査(3回)、小テスト、ノート、提出課題、授業への取り組み等						配当時間合計	35	

※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

言語文化

教科名	国語	科目名	言語文化	単位数	1 単位
学年・類型	2 学年・総合技術科		担当教員		
使用教科書・教材	東京書籍「新編言語文化」 とうほう「標準漢字演習」				

教科の目標 国語科 の目標

観点	a : 知識及び技能	b : 思考力・判断力・表現力	c : 学びに向かう力、人間性等
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

科目 言語文化 の目標

観点	a : 知識及び技能	b : 思考力・判断力・表現力	c : 学びに向かう力、人間性等
趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			話・聞	書	読	知	思	態		
1	<p>○「言語文化」を学ぶにあたって</p> <p>【知】「言語文化」を学ぶ目的をよく理解し、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</p> <p>【思】「言語文化」で、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その結果を適切に相手に伝える表現力を身につける。</p> <p>【態】「言語文化」を学ぶ目的を理解し、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身につける。</p>	<p>1「言語文化」の目標を学び、授業の取り組み方や、持ち物、評価の観点等について理解する。</p> <p>2どのような言語文化に触れてきたか、またこの授業でどのような内容について学びたいかを発表させる。</p>	○			○	○	○	【知】「言語文化」を学ぶ目的をよく理解し、社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。	1
	<p>○「とんかつ」</p> <p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文章の意味は、文脈の中で 	<p>1とんかつに対するイメージや筆者について知っていることを発表する。</p> <p>2本文を通読し、三つの部分に分けて、それぞれの話題をまとめる。（手引き1）</p> <p>3この親子の様子を整理する。また、その様子を見た語り手と女中が抱いた印象も整理する。</p> <p>4親子の状況を想像する語り手と女中の心理を理解する。（手引き2・3）</p> <p>5第二段を音読し、状況が判明した後の語り手の心理を整理する。（手引き4）</p> <p>6第三段における直太郎の変化を理解する。（手引き5）</p>			○	○	○	○	<p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ 	

	<p>形成されることを理解する。</p> <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで日本独特の桜に対する感性について理解を深め、学習課題に沿って本文や引用歌の考察を踏まえながら筆者の桜への思いを整理することができる。 							<p>方、考え方を捉え、内容を解釈している。</p> <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで日本独特の桜に対する感性について理解を深め、学習課題に沿って本文や引用歌の考察を踏まえながら筆者の桜への思いを整理しようとしている。 		
	<p>○「漢字の読み書き」</p> <p>【知】</p> <p>常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。 	<p>1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。</p> <p>2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。</p> <p>3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。</p>		○		○		○	<p>【知】</p> <p>常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。 	4
2	<p>○「デューク」</p> <p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使えるようになる。 ・我が国の言語文化に特徴的な 	<p>1 全文を通読し、事実を確かめる。(手引き 1)</p> <p>2 場面の変化に注意して、本文全体を四つの意味段落に分ける。</p> <p>3 第一段を読み、「私」の内面の状態をまとめる。(手引き 3-1)</p> <p>4 「私」の説明に従って、「少年」の行動を順を追って整理する。</p> <p>5 「私」の内面の変化を順を追って整理する。(手引き 2)</p>			○	○	○	○	<p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かに 	8

<p>語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。</p> <p>【思】</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。</p> <p>・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。</p> <p>【態】</p> <p>・進んで本文の構成や場面の展開、表現の特色を捉え、学習課題に沿って、登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考えようとする態度を養う。</p>	<p>6 第二段を読み、「私」の目が捉えた「少年」の行動を整理する。</p> <p>7 「私」と「少年」について、比喩で表現した箇所を抜き出し、比喩の効果について考え、まとめる。</p> <p>8 第三段、第四段を読み、「私」と「少年」の行動を順を追って整理する。</p> <p>9 落語を聞いてからの「私」の心理について考え、それを聞いた「少年」がキスをした理由を考える。(手引き4・言語活動1)</p> <p>10 「私」の内面的変化を、変化のきっかけと関連づけながら、整理する。(手引き2・3-2・4)</p> <p>11 「クリスマスソング」という表現に留意して、「私」のその後について考える。</p> <p>12 「渋谷・銀座」という東京を代表する繁華街が舞台になっているのを踏まえて、「私」がこの後、どうなったのかを想像し、話し合う。(手引き5)</p> <p>13 小説の主題について、自分なりに考えて文章にまとめた後、発表する。</p>		○	○	○	○	○	<p>している。</p> <p>・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。</p> <p>【思】</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。</p> <p>【態】</p> <p>・進んで本文の構成や場面の展開、表現の特色を捉え、学習課題に沿って、登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考えようとしている。</p>	
<p>○通常では、あり得ないことを表現することの意味を考える。</p> <p>【知】</p> <p>言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。</p> <p>【思】</p> <p>・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容</p>	<p>1 作品の構造と構成を考える。</p> <p>2 原作(107～115ページ)の本文について、「デューク」に関する情報と「少年」で対応する箇所を探し、どのような意味があるか考える。</p> <p>3 2をもとに作品世界における「デューク」が点が果たす役割について考える。</p> <p>4 原作の「デューク」で擬人化された箇所を探し、どのような効果と影響があるかを考え</p>	○	○	○	○	○	○	<p>【知】</p> <p>言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <p>【思】</p> <p>・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをも</p>	2

	<p>の解釈を深める。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。 【態】 ・進んで現代小説のフィクションあるいはファンタジーとして作られた作品についての理解を深め、学習課題に沿って、芸術性や創作性について考えようとする態度を養う。</p>	<p>る。(課題1) 5 1で検討した中から、重要だと思うものを選び、「デューク」の創作性にとってどのような意味を持つか、自分の考えをまとめ、話し合う。(課題2) 6 原作の後半部分(92ページ)の波線オ～ケについて、「羅生門」で対応する箇所を探し、88ページの(1)～(3)のいずれに該当するか考える。(課題3)</p>						<p>っている。 【態】 ・進んで古典を元にして作られた作品についての理解を深め、学習課題に沿って、古典を元にして作られた作品と原作との違いや創作性について考えようとしている。</p>		
	<p>○「漢字の読み書き」 【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。</p>	<p>1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。 2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。 3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。</p>		○		○		○	<p>【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。</p>	4
3	<p>○「古文に親しむ」 【知】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p>	<p>1 古文と現代文の違いについて確認する。 2 古文の代表作品の冒頭を音読する。 3 現代とは仮名遣いが違うことを知る。 4 暗唱し、古文のリズムや調子を体感する。(手引き1・2)</p>		○		○	○	○	<p>【知】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 【思】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえ</p>	3

<p>・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。</p> <p>【思】</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。</p> <p>【態】</p> <p>・進んで音読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って古文のリズムや調子を感じ取ろうとする。</p>		○						<p>て、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>【態】</p> <p>・進んで音読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って古文のリズムや調子を感じ取ろうとしている。</p>	
<p>○「徒然草」</p> <p>【知】</p> <p>・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。</p> <p>・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。</p> <p>・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解する。</p> <p>・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。</p>	<p>1 本文を音読し、歴史的仮名遣いに慣れる。 (手引き1・古文学習のしるべ1)</p> <p>2 語り手の気持ちの変化を整理し、最後の描写の意味について考える。(手引き2・3)</p> <p>3 現代語訳する際の注意点を理解する。(古文学習のしるべ1)</p>	○	○	○	○	○	○	<p>【知】</p> <p>・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <p>・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。</p> <p>・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。</p> <p>・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。</p> <p>【思】</p> <p>「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>【態】</p> <p>進んで歴史的仮名遣いについて理解し、学習課題に沿って説話のおもしろさを読み取ろうとしている。</p>	3

	<p>【思】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。</p> <p>【態】 進んで歴史的仮名遣いについて理解し、学習課題に沿って説話のおもしろさを読み取ろうとする態度を養う。</p>									
	<p>○「漢字の読み書き」</p> <p>【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。</p>	<p>1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。</p> <p>2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。</p> <p>3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。</p>	○	○	○	○	○	○	<p>【知】 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。</p>	4
評価方法	定期考査(3回)、小テスト、ノート、提出課題、授業への取り組み等							配当時間合計	35	

※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

数学 I

教科名	数学	科目名	数学 I	単位数	2 単位
学年・類型	2 学年・全類型		担当教員		
使用教科書・教材	数 I 708 「高校数学 I」 実教出版				

教科の目標 数学科 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学 I の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	(1) 数と式, 2 次関数, 三角比, 集合と論証, 及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	<p>・不等式の解の意味・不等式の性質について理解し、1次不等式が解けるようにする。</p>	<p>3節 方程式と不等式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1次方程式 不等式 不等式の性質 1次不等式 連立不等式 不等式の応用” 	○	○	○	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量関係を1次不等式で表すことができる。 ・不等式の解の意味や不等式の性質を理解している。 ・1次不等式や連立不等式を解くことができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不等号の性質を等号の性質と対比してとらえ、不等式の性質を基に1次不等式の解き方を考察できる。 ・日常の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。 （発問評価・課題提出・定期考査）” <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量関係を不等式で表すことのよさが分かり、意欲的に考えようとしている。 ・具体的な事象の考察に1次不等式を活用しようとしている。 （授業態度・課題提出） 	28
2	<p>・関数の概念について理解し、2次関数のグラフがかけられるようにする</p> <p>・2次関数の値の変化についてグラフを用いて考察し、その最大値や最小値を求められるようにする。</p> <p>・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解するとともに、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。</p>	<p>2章 2次関数</p> <p>1節 関数とグラフ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1次関数とそのグラフ 2次関数とそのグラフ <p>2節 2次関数の値の変化</p> <ol style="list-style-type: none"> 2次関数の最大値・最小値 2次関数のグラフと2次方程式 2次関数のグラフと2次不等式 	○	○	○	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2次関数のグラフの特徴を理解できる。 ・2次関数の式から、そのグラフをかくことができる。 ・$y=ax^2+bx+c$の式を$y=a(x-p)^2+q$の形に変形（平方完成）することができる。 ”・2次関数の最大値・最小値を理解している。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、グラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$y=ax^2+bx+c$の式を$y=a(x-p)^2+q$の形に変形（平方完成）したうえで、そのグラフをかくことができる。 ・2次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察できる。 ・定義域に制限がある2次関数の最大値・最小値について考察できる。 ・日常の事象について、2次 	28

					<p>関数の最大値・最小値を利用して考察できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2次不等式を解く際に、簡単に因数分解できない2次式について、2次方程式の解の公式を利用して考察できる。 <p>(発問評価・課題提出・定期考査)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの現象で、関数の関係になっているものに関心を持ち、調べようとしている。 ・コンピュータを使って、いろいろな2次関数のグラフをかき、その特徴を調べようとしている。 ・2次関数の値の変化に関心を持ち、具体的な事象の考察に2次関数の最大・最小を活用しようとしている。 ・$D=b^2-4ac$の符号を用いると、2次関数のグラフ・2次方程式・2次不等式の関係がまとめられることに興味を持ち、Dの式を用いてグラフと共有点の個数を考えようとしている。 <p>(授業態度・課題提出)</p>		
3	<p>・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解するとともに、鋭角の三角比を利用して2地点の標高差や水平距離を求められるようにする。</p> <p>・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解するとともに、正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求められるようにする。</p> <p>・三角比を用いて三角形などの面積を求めたり、空間図形の考察に活用できるようにする。</p>	<p>3章 三角比</p> <p>1節 三角比</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 三角形 2. 三角比 3. 三角比の利用 4. 三角比の相互関係 <p>2節 三角比の応用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 三角比の拡張 2. 三角形の面積 3. 正弦定理 4. 余弦定理 5. 正弦定理と余弦定理の利用 	○	○	○	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイン、コサイン、タンジェントの意味を理解できる。 ・直角三角形について、三角比の値を求めることができる。 ・三角比の相互関係について理解できる。 ・三角比を鈍角まで拡張することの意義を理解できる。 ・鋭角の三角比を理解できる。 ・正弦定理や余弦定理について理解し、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角比を用いて三角形の面積を求めることができる。 <p>(発問評価・課題提出・定期考査)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直角三角形において、2辺の長さが与えられた場合について、三平方の定理を利用することで残りの1辺の長さが得られ、それによって三角比の値を求めることができることを考察できる。 ・日常の事象について、三角比を利用して高さや距離が求められることを考察で 	14

				<p>きる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角比の相互関係を利用して、1つの三角比の値から残りの三角比の値が求められることを考察できる。 ・鋭角の三角比を用いて、鈍角の三角比の値を求められることを考察できる。 ・鋭角の三角比と同様に、鈍角の三角比においても、三角比の相互関係を利用して、1つの三角比の値から残りの三角比の値が求められることを考察できる。 ・正弦定理や余弦定理を導く過程を考察できる。 ・日常の事象について、正弦定理や余弦定理を利用して高さや距離が求められることを考察できる。 <p>(発問評価・課題提出・定期考査)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直角三角形において、三角形の大きさにかかわらず、角の大きさだけで三角比の値が決まることの良さがわかる。 ・校舎の高さや、2地点の標高差・水平距離などを、三角比を用いて調べようとするしている。 ・余弦定理と三平方の定理の関係に関心をもっている。 ・正弦定理や余弦定理を利用することで、実測が難しい距離などを求められることに関心をもっている。 <p>(授業態度・課題提出)</p>	
評価方法	<p>各単元において下記の3観点で評価し、総合的に評価をする。</p> <p>①知識理解 発問評価・課題提出・定期考査による</p> <p>②思考・判断・表現 発問評価・課題提出・定期考査による</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 授業態度・課題提出による。</p>		配当時間合計	70	

- ・工業高校の特性を活かし、関数電卓等の使用も取り入れた授業を、生徒の実態に合わせて行う場合もある。
 - ・各期末考査後の時間などを利用して「集合と論証」「データの分析」を取り扱う。
- ※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

英語コミュニケーション I

教科名	外国語	科目名	英語コミュニケーション I	単位数	2 単位
学年・類型	2 学年・全類型必修		担当教員		
使用教科書・教材	東京書籍 All Aboard! English Communication I				

教科の目標 外国語（英語）科 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

科目 英語コミュニケーション I の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	実際に英語を用いた言語活動を通して、五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価の観点			単元の(題材)の評価規準	配当時間
			聞	読	話[や]	話[発]	書	知	思	態		
1	動名詞(動詞の-ing形)を用いた文の形・意味・用法を理解する また、水族館部の活動を通して、部員たちが学んだことや将来に向けての目標を読み、自分が今関心を持っていることに目を向け、それを踏まえて将来の目標を考える。	○Lesson 5 Learning from the Sea [題材内容] 高校のユニークな部活動を通して、今好きなことを将来のことについて考える。 [言語材料] 動名詞 [言語活動] 将来の夢について、英語で述べることができる	○	○	○	○	○	○	○	○	[知識]動名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 [技能]将来の夢や先週末に楽しんだことについて、動名詞を用いて、考えや気持ち、情報などを話して伝え合う技能を身に付けている。 [思]高校のユニークな部活動に関して書かれた文章について、聞いたりよんだりしたことを活用しながら、将来の夢や先週末に楽しんだことについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや気持ち、情報などを話したり書いたりして伝えあっている。 [態]高校のユニークな部活動に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、将来の夢や先週末に楽しんだことについて、相手の意見を知り、自分の考えや気持ち、情報などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。	25
	受け身 (be 動詞 + 過去分詞) を用いた文の形・意味・用法を理解する 題材である江戸時代後期に活躍した浮世絵師、歌川国芳の作品は、現代のマンガにつながるユーモアがあり、ドラマチックな題材も多い。 浮世絵は昔のものだというイメージをくつがえし、現代の高校生に浮世絵の魅力を感じさせるきっかけとする。 また、江戸時代と現代の日本語	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period [題材内容] 江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 [言語材料] 受け身 [言語活動] 好きな絵について、英語で述べるができる。	○	○	○	○	○	○	○	[知識]受け身を用いた文の形・意味・用法を理解している。 [技能]好きな絵の紹介とその理由について、受け身を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身に付けている。 [思]歌川国芳の浮世絵に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな絵とその理由について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合っている。 [態]歌川国芳の浮世絵に関して書かれた文章について、聞いたり読		

	<p>化の連続性を考えさせたい。</p>											<p>んだりしたことを活用しながら、好きな絵とその理由について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p>	
2	<p>・比較表現 (-er/ the -est / as +原級+as) を用いた文の形・意味・用法を理解する また、自身の置かれている状況をアンネに投影しながら、彼女がどれほどの苦悩の中で生きていたかを考えながら、そのような状況下でも決して希望を捨てなかったアンネの前向きな姿勢を読み取らせた。</p> <p>・現在完了形 [have + 過去分詞] を用いた文の形・意味・用法を理解する。 また、人と人をつなぐために作られたロボット“Orihime”を通して、どのようにしたら孤独と戦う人たちが社会で活躍する機会を得ること</p>	<p>○Lesson 7 A Diary of Hope</p> <p>[題材内容] アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。</p> <p>[言語材料] 比較表現 (-er/ the -est / as +原級+as)</p> <p>[言語活動] 関心のある人物について、英語で説明することが出来る。</p> <p>○Lesson 8 A Door to a New Life</p> <p>[題材内容] ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。</p> <p>[言語材料] 現在完了形 [have + 過去分詞]</p> <p>[言語活動] 人の生活を豊かにするロ</p>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>[知識]比較表現を用いた文の形・意味・用法を理解している。また、アンネ・フランクについて学んだり、関心のある人物について調べた事柄を整理・理解している。 [技能]比較表現の理解のもとに、アンネ・フランクについて学んだり、関心のある人物について自分で調べた事柄を用いて、考えなどを伝えあう技能を身に付けている。 [思]彼女の日記について書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、関心のある人物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合っている。 [態]彼女の日記について書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、関心のある人物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p> <p>[知識]現在完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 [技能]現在完了形を用いて、情報や考えを話して伝え合う技能を身につけている。 [思]ロボットカフェについて書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ロボットについて自分で調べた事柄を用いて、それを提案</p>	30

<p>ができるかを考えさせたい。</p>	<p>ボットについて考え、英語で述べるができる。</p>									<p>する記事を書いたり、書いたり話したりしている。 [態] ロボットカフェについて書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ロボットについて自分が調べたことをまとめるために、情報や考えを話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p>
----------------------	------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	---

3	<p>・「名詞を後ろから説明する分詞」を用いた文の形・意味・用法を理解する また、インドネシアのバリ島で、プラスチック汚染問題を解決するために立ち上がった、高校生と同世代の10代の姉妹のエピソードを通じて、身の回りの環境問題について考える機会を提供する。</p>	<p>○Lesson 9 Fighting Plastic Pollution</p> <p>[題材内容] プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。</p> <p>[言語材料] 名詞を後ろから説明する分詞</p> <p>[言語活動] 環境を守るためにできることについて、英語で述べることが出来る。</p>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	<p>[知識]「名詞を後ろから説明する分詞」の用いられた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>[技能]「名詞を後ろから説明する分詞」の理解をもとに、プラスチックごみによる環境汚染の問題について学んだり、プラスチックごみの問題について調べた事柄を用いて、自分たちにできることを伝えあう技能を身に付けている。</p> <p>[思]プラスチックごみによる環境汚染の問題について書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、プラスチックごみの問題について自分たちにできることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合っている。</p> <p>[思]プラスチックごみによる環境汚染の問題について書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、プラスチックごみの問題について自分たちにできることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている</p>	1 5
評価方法	<p>授業での取り組み、発言 定期考査、小テスト ファイル提出</p>										配当時間合計	70	

※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

科学と人間生活

教科名	理科	科目名	科学と人間生活	単位数	2単位
学年・類型	2 学年		担当教員		
使用教科書・教材	高等学校 科学と人間生活 (第一学習社) 担当教員作成プリント				

教科 理科 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	2年間の理科授業の中で、科学技術をテーマとして、理科の基礎的な学習を円滑に進めて、この内容を習得すること目標とする。	科学技術をテーマとして、科学的な思考・技能を簡素化し、身近な事象を用いて習得できるようにする。	生徒自身が実験・観察の操作・体験を通じて、生徒自身がワークシートに記入出来る様に指導行う。

科目 科学の人間生活 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自然と人間生活との関わり及び、科学技術が人間生活に果たした役割について考える。	日常生活や身近な事象・現象に関する実験・観察などを通じて理解させる。また、それを利用して体得できるようにする。	科学的な見方・考え方、または科学技術への役割を養うとともに、興味・関心を高めていく。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展 人間生活の中の科学、光や熱の科学 (知) 材料とその利用をテーマに特徴・成り立ち・分類・用途を学習する。 (思) 具体的にプラスチック・金属・繊維それぞれの特徴・成り立ち・用途を考える。 (態) それぞれの材料はどのような所でどのように活用・利用されているかを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展が今日の人間生活に対して、どのようにして貢献したかについて理解させる。 身近な自然の事象・現象及び日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展を理解しているかどうか。 科学と人間生活との関わりを理解しているかどうか。 (知) 材料を科学技術の歴史と発展を振り返って理解しているかどうか。 (思) 科学技術の歴史を顧みて、現在、どのように使用されているかを知る。 (態) それぞれの材料を生産・使用・廃棄・再利用を生徒自身が考えて実践していく。 	28
2	<ul style="list-style-type: none"> 物質の科学、生命の科学 宇宙や地球の科学 (知) 中学理科分野で学習しているので、復習を兼ねて、光合成の学習をして、それをもとに発展的に考える。 (思) 植物の生育や光に対する動物の行動を観ていく。 (態) 光合成は生物にとって必要不可欠なもので、生物にとってなくてはならないことである事に気づかせる 	<ul style="list-style-type: none"> 材料とその再利用、衣料と食品、生物と光、微生物とその利用 身近な天体と太陽系における地球、身近な自然景観と自然災害 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 材料、衣料と食品、生物と光、微生物を理解しているかどうか。 身近な天体と太陽系における地球、身近な自然景観と自然災害を理解しているかどうか。 (知) 中学で学習した内容を蘇っているかをテーマに学習する。 (思) 中学の内容を利用して、植物の生育、動物の行動、人の視角を考えていく。 (態) 太陽の光は、それ以外に動植物に、どのように影響を与えるか、さらに人間への影響について知る。 	28
3	<ul style="list-style-type: none"> これからの科学と人間生活 (知) 1・2 学期の内容を踏まえて、新機能を備えたプラスチック・衣料の開発を考える。 (思) プラスチックの開発として高吸水樹脂・導電性樹脂など新素材について学ぶ (態) プラスチックは使い勝手の良い面、マイクロプラスチックのように生体内に悪影響があると言われていたので、良い面悪い面、両方を知る 	<p>自然と人間生活との関わり、及び科学技術を人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活との関わり方について考察させる。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割を理解しているかどうか。 (知) プラスチックの歴史と発展を振り返って、理解しているかどうか。 (思) 使い勝手の良いプラスチックは、無くてはならないと思うので、プラスチックの未来を予測する。 (態) プラスチックの便利さよりも、プラスチックを減らすことを目的とすることが多くなってきているのでプラスチックの量を考えていく。 	14
評価方法	定期考査、ワークシートの提出、出席状況の三点で評価する。					配当時間合計	70

※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

体育

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位
学年・類型	2 学年・共通		担当教員		
使用教科書・教材	現代高等保健体育（大修館書店）				

教科の目標 保健体育 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他社に伝える力を養う。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他社に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	担当時間
			知	思	態		
1	<ul style="list-style-type: none"> 定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて、言ったり、書き出すことができるようにする。 サービスでは、ボールをねらった場所に打つことができるようにする。 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けることができるようにする。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとするようにする。 	オリエンテーション 体づくり運動 バドミントン スポーツテスト バドミントン 体育理論	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて、言ったり書き出したりしている。 サービスでは、ボールをねらった場所に打つことができる。 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 	28
2	<ul style="list-style-type: none"> 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解することができるようにする。 ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができるようにする。 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けることができるようにする。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとするようにする。 	バスケットボール 体育理論 サッカー 体育理論	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 	28

3	<ul style="list-style-type: none"> ・技術と関連させた運動や練習を繰り返したり，継続して行ったりすることで，結果として体力を高めることができることを理解できるようにする。 ・自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができるようにする。 ・体力や技能の程度，性別等の違いに配慮して，仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けることができるようにする。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとするようにする。 	陸上競技 体育理論	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・技術と関連させた運動や練習を繰り返したり，継続して行ったりすることで，結果として体力を高めることができることについて，言ったり書き出ししたりしている。 ・自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。 ・体力や技能の程度，性別等の違いに配慮して，仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとしている。 	14
評価方法	授業観察、学習カード、提出物等					配当時間合計	70

※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

保健

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1 単位
学年・類型	2 学年・共通		担当教員		
使用教科書・教材	現代高等保健体育（大修館書店）				

教科の目標 保健体育 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他社に伝える力を養う。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、国道免などの変化にかかわり、健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性にかかわる情報を適切に整理することができる。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健医療サービスの活用方法を整理することができる。 	14
2	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引きおこし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解できるようにする。 ・健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活 ・大気汚染と健康 ・水質汚濁、土壌汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみの処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる活動 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を支える環境づくりにおける事象や情報などについて、健康にかかわる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができる。 ・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用することができる。 	14
3	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて理解できるようにする。 ・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基いた、健康に関する環境づくりが重要であることについて理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・様々な保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーションの考え方に基いた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てることができる。 ・健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明することができる 	7
評価方法		定期考査、提出物等				配当時間合計	35

※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

家庭基礎

教科名	家庭科	科目名	家庭基礎	単位数	2単位
学年・類型	2学年		担当教員		
使用教科書・教材	「高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる」 学習内容のまとめと作業 家庭基礎学習ノート				

教科 家庭科の目標 「人間の生涯にわたる発達を生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を想像する能力を実践的な態度を育てる。」

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯を見通した自己の生活についての学びを理解し適切にできる。	生涯を見通した自己の生活について理解し、問題を見出し、解決策を構想することができる。	日頃の授業での活動、姿勢、提出物が提出できているか、課題の解決に主体的に取り組むことができているか、振り返って生活を改善したり、生活を創造し実践しようとしているか。

科目 家庭科の目標 「私たちの生活をめぐるさまざまな課題に向き合い、科学的、体験的な力をつけながら、健康、快適、安全で安心な持続可能な生活をめざしていく。」

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生涯を見通した自己の生活についての学びを理解し適切にできる。	生涯を見通した自己の生活について理解し、問題を見出し、解決策を構想することができる。	日頃の授業での活動、姿勢、提出物が提出できているか、課題の解決に主体的に取り組むことができているか、振り返って生活を改善したり、生活を創造し実践しようとしているか。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	近年の消費行動の多様化・個性化が多量の死蔵品を生む要因となっていることを理解し、消費のあり方を考える。 玉止め、玉結び、本返し縫い、まつり縫い、ミシンの操作を学び、衣服の補修についてまなぶ。	私たちと衣生活 被服の素材、洗濯方法と表示、被服の手入れと補完を学ぶ。 被服実習 基本縫いを習得する。 環境に配慮した消費生活を送れるようにエコバックを作成していく。	○	○	○	【評価の観点】 (1)知識及び技能 生涯を見通した自己の生活についての学びを理解し適切にできる。 (2)思考, 判断, 表現 生涯を見通した自己の生活について理解し、問題を見出し、解決策を構想することができる。 (3)主体的に学習に取り組む態度 日頃の授業での活動、姿勢、提出物が提出できているか、課題の解決に主体的に取り組むことができているか、振り返って生活を改善したり、生活を創造し実践しようとしているか。	1 9
2	私たちは、人生のどの地点を歩んでいるのか、また各ライフステージは、どのような発達課題があるのか考える。 家族、家庭の機能はどのように変化してきたのか、家族員相互の権利と義務はどういうもか考える 高齢社会の現状を課題を社会保障制度と共に考える。 サービスの購入はすべて契約であることを知り、契約の重要性を理解する。	青年期を生きる 家族、家庭と社会のかかわり 高齢期を生きる 消費者問題を考える	○	○	○	【評価の観点】 (1)知識及び技能 生涯を見通した自己の生活についての学びを理解し適切にできる。 (2)思考, 判断, 表現 生涯を見通した自己の生活について理解し、問題を見出し、解決策を構想することができる。 (3)主体的に学習に取り組む態度 日頃の授業での活動、姿勢、提出物が提出できているか、課題の解決に主体的に取り組むことができているか、振り返って生活を改善したり、生活を創造し実践しようとしているか。	2 9
3	命の始まり、子供の体と心の発育、発達、子供の発達段階に応じてどのような遊びをするのか、親の役割とは何か考える。 食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。	子供の発達 調理の基本 ライフステージと食事	○	○	○	【評価の観点】 (1)知識及び技能 生涯を見通した自己の生活についての学びを理解し適切にできる。 (2)思考, 判断, 表現 生涯を見通した自己の生活について理解し、問題を見出し、解決策を構想することができる。 (3)主体的に学習に取り組む態度 日頃の授業での活動、姿勢、提出物が提出できているか、課題の解決に主体的に取り組むことができているか、振り返って生活を改善したり、生活を創造し実践しようとしているか。	1 2
評価方法	日頃の授業での活動、姿勢、提出物の提出状況、テストにより評価する。					配当時間合計	6 0

※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

機械製図

教科名	工業	科目名	機械製図	単位数	2単位
学年・類型	2学年・機械類型		担当教員		
使用教科書・教材	機械製図（実教出版）、7実教 702製図練習ノート（実教出版） 担当教員作成のプリント				

教科 機械類型 の目標

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
趣旨	○機械製図は規格に基づいて作成され、図面に関係する人達はその内容を正確に理解し知識・技能高めることが出来る。	○思考、判断を高めるため品物の形状をわかりやすく表すと共に、一つの図面で立体的に表す方法について理解し等角図、キャビネット図をかくことができる。	○品物の形状をわかりやすく表す為に、一つの図面で立体的に表す方法について主体的に学習に取り組む姿勢を身につける。

科目 機械製図 の目標

観点	a：知識・技能	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
趣旨	○機械製図の基本を学び、機械・器具の設計製図に至るまで段階を追って学習する。	○そのうえで、CAD および基礎製図検定を念頭に置き基礎基本による設計製図の概要を学習する。	○機械製図に関する基礎知識を、総合的にまとめる能力を身につける。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	第1章 製図の基礎 1 機械製図と規格 1 図面の役目と種類 2 製図の規格 2 製図用具とその使い方 1 製図用具 2 製図用具の使い方 3 図面に用いる文字と線 1 文字 2 線	・工業における図面や製図の意義・役割等を理解し、機械製図に関するJIS規格の概要を知り、それらが実際に活用できるように学習する。			○	・機械製図は「機械設計」や「機械工作」、「実習」等との関係が深く、学習を進めるに当たり、これらの科目との関連を図る必要がある。 ・JISB0001「機械製図」を参照のこと。 ・製図用具の使い方になれるとともに、フリーハンドによる製図能力を養う。	28
2	4 基礎的な図形のかき方 1 基礎的な作図 2 直線と円弧、円弧と円弧のつなぎ方 3 平面曲線	・製図用具の種類と用途を知り、正しい使い方等を理解する。 ・JIS規格に規定された文字や線の種類と用途について学習するとともに、図面に用いる文字や線が正しく、きれいに、迅速にかけるよう反復練習する。	○		○	・平面図形について、「数学1」や「数学A」との関連を図る。	28
3	5 投影図のえがき方 1 投影法 2 投影図のえがき方 6 立体的な図示法 1 等角図のえがき方 2 キャビネット図 3 カバリエ図 4 テクニカルイラストレーション	・製作に必要な情報が含まれた図面(部品図・組立図)の作成に欠かせない基本的な考え方や手法について学習する。 ・製作図の種類や用途等を理解し、製作図(原図)のかき方や検図の仕方について、実技(演習課題等)を通して学習する。 ・図面管理の重要性を理解し、最近の電子情報化に向けた取り組みについて学習する。	○	○	○	・教科書の「製図例7, 8」を参考に、製作図のかき方について復習する(まとめ学習)。	14
評価方法		授業態度、定期考査、作品				配当時間合計	70

※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

機械実習

教科名	工業	科目名	機械実習	単位数	4単位
学年・類型	第2学年・機械類型		担当教員		
使用教科書・教材	実習教材テキスト 担当教員作成のプリント				

教科 工業の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業科目における各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

科目 機械実習の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	機械加工における様々な作業を体験する。機械の操作に関する基礎・基本を学び、安全な作業を行うことが出来る知識と技能を養う。	機械加工における作業工程を自ら判断し、安全で適切な加工方法を行うことができる。作品を通して自己表現を行い、より良いモノづくりに関する思考を深める。	工業技術に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組む。様々な加工方法に積極的に挑戦し、意欲的に学習に取り組む。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	<p>旋盤</p> <p>【知】旋盤作業の基本操作についての正しい知識を持ち、旋削作業法を理解させる。旋盤作業の基本操作の技能を体得し、安全に配慮した旋削作業法を身につけさせる。</p> <p>【思】旋盤作業の基本操作について、適切に思考・判断し、旋削作業についての的確に表現できる技量を身につけさせる。</p> <p>【態】旋盤作業の基本操作について興味・関心を持ち、旋削作業に意欲的に取り組む態度を身につけさせる。</p>	<p>旋盤実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端面切削 ・心立て ・外周切削 ・ねじ切り ・溝切り 	○	○	○	<p>【知】旋盤作業の基本操作についての正しい知識を持ち、旋削作業法をよく理解している。旋盤作業の基本操作の技能を体得し、安全に配慮した旋削作業法を身につけている。</p> <p>【思】旋盤作業の基本操作について、適切に思考・判断し、旋削作業についての的確に表現できる技量を身につけている。</p> <p>【態】旋盤作業の基本操作について興味・関心を持ち、旋削作業に意欲的に取り組む態度を身につけている。</p>	56
2	<p>フライス盤</p> <p>【知】フライス盤作業の基本操作についての正しい知識を持ち、旋削作業法を理解させる。フライス盤作業の基本操作の技能を体得し、安全に配慮した旋削作業法を身につけさせる。</p> <p>【思】フライス盤作業の基本操作について、適切に思考・判断し、旋削作業についての的確に表現できる技量を身につけさせる。</p> <p>【態】フライス盤作業の基本操作について興味・関心を持ち、旋削作業に意欲的に取り組む態度を身につけさせる。</p>	<p>フライス盤実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平面加工 ・側面加工 ・溝加工 	○	○	○	<p>【知】フライス盤作業の基本操作についての正しい知識を持ち、旋削作業法をよく理解している。フライス盤作業の基本操作の技能を体得し、安全に配慮した旋削作業法を身につけている。</p> <p>【思】フライス盤作業の基本操作について、適切に思考・判断し、旋削作業についての的確に表現できる技量を身につけている。</p> <p>【態】フライス盤作業の基本操作について興味・関心を持ち、旋削作業に意欲的に取り組む態度を身につけている。</p>	56
3	<p>ガス溶接</p> <p>【知】溶接・鍛鉄作業の基本作業についての正しい知識を持つ。溶接・鍛鉄作業の基本作業の技能を体得し、安全に配慮した作業法を身につけさせる。</p> <p>【思】溶接・鍛鉄作業の基本作業について、適切に思考・判断し、的確に表現できる技量を身につけさせる。</p> <p>【態】溶接・鍛鉄作業の基本作業について興味・関心を持ち、意欲的に取り組む態度を身につけさせる。</p>	<p>ガス溶接</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍛鉄 	○	○	○	<p>【知】溶接・鍛鉄作業の基本作業についての正しい知識を持ち、よく理解している。溶接・鍛鉄作業の基本作業の技能を体得し、安全に配慮した作業法を身につけている。</p> <p>【思】溶接・鍛鉄作業の基本作業について、適切に思考・判断し、的確に表現できる技量を身につけている。</p> <p>【態】溶接・鍛鉄作業の基本作業について興味・関心を持ち、意欲的に取り組む態度を身につけている。</p>	28
評価方法	レポート内容、創意工夫、観察力、学習状況観察、製作品					配当時間合計	140

※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

電気回路(電気類型)

教科名	工業	科目名	電気回路	単位数	3単位
学年・類型	2学年・電気類型		担当教員		
使用教科書・教材	工業 720 「電気回路 1」 実教出版 担当教員作成のプリント				

教科の目標 電気類型の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	電気の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	電気に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

科目 電気回路の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	基本的な電気現象、電気現象を量的に取り扱う方法、電氣的諸量の相互関係について原理・法則を理解し、知識と技術を身につけている。	基本的な電気現象の意味を考え、変化に対する結果を電気に関する知識と技術を活用して考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。	基本的な電気現象と、その現象が数式により表現できることに関心をもち、電気回路を工業技術に活用する力の向上に意欲的に取り組んでいる。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	<p>電流の正体と性質、種類について理解させる。</p> <p>電流計・電圧計の接続方法や回路図を理解させる。</p> <p>電流・電圧・抵抗の関係について理解させる。</p> <p>抵抗器・コンデンサ・コイルの役割を理解させる。</p> <p>オームの法則を理解させる。</p> <p>抵抗の直列接続・並列接続・直並列接続について理解させる。</p> <p>電池の接続について理解させる。 キルヒホッフの法則について理解させ、キルヒホッフの法則を用いた計算を習熟させる。</p> <p>電流の発熱作用を理解させる。</p> <p>電力と電力量について理解させる。</p> <p>温度上昇と許容電流について理解させる。</p>	<p>電気回路の電流</p> <p>電気回路の構成 電気回路の電圧</p> <p>電気回路の測定</p> <p>抵抗器 コンデンサ コイル</p> <p>オームの法則</p> <p>抵抗の直列接続 抵抗の並列接続 抵抗の直並列接続 電流・電圧・抵抗の測定</p> <p>電池の接続 キルヒホッフの法則</p> <p>電流の発熱作用</p> <p>電力と電力量</p> <p>温度上昇と許容電流</p>	○			<p>【知識・技能】 電流が電子の流れに関係していることを理解し、電流の大きさを電荷と導線の断面積、時間から求めることができる。 オームの法則を用いて、電流、電圧および抵抗の未知量を求めることができる。直列回路、並列回路の各抵抗の電圧、電流などを求めることができる。また、キルヒホッフの法則を用いて回路の電流、電圧を求めることができる。 ジュールの法則を用いて電流による発熱量、電力などを求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 電流が電子の流れに関係していることから電流の向きを判断できる。また、電流・電圧・抵抗の関係性を思考し、グラフや式で表現できる。 電気抵抗が抵抗率、断面積、長さと関係することをパイプと水流との関連で類推し表現できる。また、抵抗器に書かれたカラーコードや許容差などを読取り、使用に適切な抵抗器かを判断できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 電流・電圧・抵抗についてや、これらの関係について、理解を深めようと主体的に学習に取り組んでいる。 電流の発熱作用、電力と電力量に、理解を深めようと主体的に学習に取り組んでいる。</p>	42
2	<p>帯電体による静電現象を身近な例によって理解させ、クーロンの法則を利用して静電力の計算ができるようにする。 電界・電位・静電容量について理解させる。</p> <p>平行板コンデンサに電荷が蓄積される現象を理解させる。 コンデンサの並列・直列接続について理解させ、合成静電容量の計算ができるよ</p>	<p>電荷と電界</p> <p>コンデンサ</p>	○	○		<p>【知識・技能】 電気力線の性質を理解し、点電荷によって生じる電気力線、点電荷の極性による電気力線の関係を描くことができる。平行板コンデンサと誘電体の性質や静電容量の意味、電荷・電圧・静電容量の関係を理解し、合成静電容量を求めることができる。磁力線の性質を理解し、描くことができる。磁極間に働く力の関係を理解し、クーロンの法則により力の大きさを求めることができる。また、アンペアの右ねじの法則から、磁界</p>	42

	<p>うにする。</p> <p>クーロンの法則は物理的な意味を理解させた後に、計算問題を解く方法に習熟させる。</p> <p>アンペアの右ねじの法則について理解させ、電流によってどのような磁界がつけられるかを理解させる。</p> <p>点磁荷による磁界の強さ、電流のつくる磁界の大きさについて理解させる。</p> <p>アンペアの周回路の法則について理解させ、磁界の大きさを求める計算ができるようにする。</p>	<p>電流と磁界</p>	○	○	<p>と電流の向きの関係を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 静電誘導現象から静電遮へい現象を推論し表現できる。 平行板コンデンサの静電容量は、金属板の面積と間隔にかかわることを推論し表現できる。 電流が流れると磁界が生じ、磁界は磁力線や磁束によって表されることなどを考察し表現できる。 電流と磁力線の関係から電磁力の向きを考察し表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 静電現象や電荷と電界の関係などについて、理解を深めようと主体的に学習に取り組んでいる。 平行板コンデンサの静電容量、コンデンサの接続と合成静電容量などについて、理解を深めようと主体的に学習に取り組んでいる。</p>	
3	<p>電磁力の向きと大きさの求め方、方形コイルに働くトルクの求め方、平行な直線状導体間に働く力の求め方について理解させる。</p> <p>環状鉄心の磁気回路及び鉄のBH曲線（磁化曲線）について理解させる。</p> <p>電磁誘導現象、誘導起電力の向きについて理解させ、誘導起電力の計算ができるようにする。</p> <p>インダクタンス、自己誘導現象、相互誘導現象、電磁エネルギーについて理解させる。</p>	<p>磁界中の電流に働く力</p> <p>磁性体と磁気回路</p> <p>電磁誘導と電磁エネルギー</p>	○	○	<p>【知識・理解】 導線に流れる電流や磁界、これらにより生じる電磁力の向きをフレミングの左手の法則から求めることができる。 磁気回路を電気回路と対応させて回路の磁束を求めることができる。 自己インダクタンスと相互インダクタンスの意味を理解し、コイルやコイル間に生じる誘導起電力を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 電流が流れると磁界が生じ、磁界は磁力線や磁束によって表されることなどを考察し表現できる。 電流と磁力線の関係から電磁力の向きを考察し表現できる。 磁気回路を電気回路に対応させて推論し表現することができる。 導体の運動と誘導起電力の関係を考察し表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 磁石による磁気現象や電線に流れる電流によって生じる磁界の方向や大きさについて、理解を深めようと主体的に学習に取り組んでいる。 磁界中の電流に働く電磁力の方</p>	21

					向や大きさについて、理解を深めようと主体的に学習に取り組んでいる。 電磁誘導による起電力の発生と電磁エネルギーについて、理解を深めようと主体的に学習に取り組んでいる。	
評価方法	各単元において下記の3観点で評価し、総合的に評価をする。 ①知識理解 発問評価・課題提出・定期考査による ②思考・判断・表現 発問評価・課題提出・定期考査による ③主体的に学習に取り組む態度 授業態度・課題提出による。			配当時間合計	105	

・工科高校の特性を活かし、関数電卓等の使用も取り入れた授業を、生徒の実態に合わせて行う場合もある。
※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

電気実習

教科名	電気類型	科目名	実習	単位数	3 単位
学年・類型	2 学年・電気類型		担当教員		
使用教科書・教材	担当教員作成のプリント 第二種電気工事士教本				

教科の目標 電気類型 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	電気の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	電気に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

科目 実習 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	社会における情報化の進展と情報の意義や役割、情報化社会に生きる技術者としての使命を理解し、情報技術や数理処理に関する基礎的な知識を身につけ、それらの知識を概念的に理解し、調査や観察・演習を通して、それらを実際に活用できる技能を身につけている。	情報化社会における諸問題の解決や情報技術・数理処理について自ら思考を深め、問題解決方法を適切に判断し、情報技術や数理処理を活用して、論述や報告書の作成、グループでの話し合いや発表、作品の制作などの表現の能力を身につけている。	情報技術や数理処理に関する知識と技能を獲得したり、思考・判断・表現の力を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを通して、他者との協働により自らの考えを相対化し、学びに向かって意欲的に取り組む力や人間性を身につけている。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	<p>○電気実習を学ぶにあたって</p> <p>【知】「電気」を学ぶ目的を理解させ、工業の中で電気の役割についての知識と技能を身につけさせる。</p> <p>【思】実験と製作を通じ適切に思考・判断し、その結果を適切に相手に伝える表現力を身につけさせる。</p> <p>【態】学ぶ目的を理解し、電気分野に共通する知識や技術に興味・関心を持つとともに、実習に主体的に取り組む態度を身につけている。</p>	<p>・「電気」の実学習を通して、工業の電気分野に必要である基礎的な知識、技術、態度を座学・実習を通して習得する意義を理解させる。</p>	○	○	○	<p>【知】「電気実習」を学ぶ目的をよく理解させ、工業技術の中の電気ついて、知識と技能を身につけている。</p> <p>【思】何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その結果を適切に相手に伝える表現力を身につけている。</p> <p>【態】学ぶ目的を理解し、電気分野に共通する知識や技術に興味・関心を持つとともに、実習に主体的に取り組む態度を身につけている。</p>	3
2	<p>・電気工事</p> <p>・電子計測</p>	<p>・電気工事</p> <p>・抵抗の直列回路</p> <p>・オームの法則</p> <p>・抵抗の並列回路</p>	○	○	○	<p>【知】電気工事及び計測を通じて、体験的に専門知識や技術の深化を図ることができる。</p> <p>【思】電気工事及び計測を系統的に思考し、グループで協力して取り組む。</p> <p>【態】学ぶ目的を理解し、電気分野に共通する実習に主体的に取り組む態度を身につけている。</p>	30
	<p>・電気工事</p> <p>・電子計測</p>	<p>・電気工事</p> <p>・分流器</p> <p>・倍率器</p> <p>・単相変圧器の特性</p> <p>・単相交流電力の測定</p>	○	○	○	<p>【知】計測を通じて、体験的に専門知識や技術の深化を図ることができる。</p> <p>【思】電気工事及び計測を系統的に思考し、グループで協力して取り組む。</p> <p>【態】学ぶ目的を理解し、電気分野に共通する実習に主体的に取り組む態度を身につけている。</p>	18
	<p>・電気計測</p> <p>・電子計測</p>	<p>・キルヒホッフの法則</p> <p>・直流電動機の始動と制御</p> <p>・ロボット制御</p> <p>・制御プログラム</p>	○	○	○	<p>【知】計測やプログラミングを通じて、体験的に専門知識や技術の深化を図ることができる。</p> <p>【思】計測実験を系統的に思考し、グループで協力して取り組む。</p> <p>【態】学ぶ目的を理解し、電気分野に共通する実習に主体的に取り組む態度を身につけている。</p>	15
3	<p>・電気工作</p> <p>・電子工作</p>	<p>・音や光を用いた電子回路の製作</p>	○	○	○	<p>【知】ものづくりを通して、体験的に専門知識や技術の深化を図ることができる。</p> <p>【思】ものづくりを系統的に思考し、グループで協力して取り組む。</p> <p>【態】学ぶ目的を理解し、製作実習に主体的に取り組む態度を身につけている。</p>	9

3	・総合製作	<ul style="list-style-type: none"> ・センサー、ギアモーターを使ったラインレーザーの製作 ・機械加工でのフレーム製作。 	○	○	○	<p>【知】ものづくりを通して、体験的に専門知識や技術の深化を図ることができる。</p> <p>【思】ものづくりを思考錯誤、グループで協力して取り組む。</p> <p>【態】学ぶ目的を理解し、電気分野に共通する実習に主体的に取り組む態度を身につけている。</p>	21
	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング ・ソフトウェアの使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング ・ワード・エクセルの使い方 	○	○	○	<p>【知】コンピュータの専門知識や技術の深化を図ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアの使い方から、専門知識や技術の深化を図ることができる。 <p>【思】プログラミングを系統的に思考し、グループで協力して取り組む。</p> <p>【態】学ぶ目的を理解し、電気分野に共通する実習に主体的に取り組む態度を身につけている。</p>	9
評価	取組状況、創意工夫、観察力、学習状況観察・作品					配当時間合計	105

※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

電気回路(電子類型)

教科名	工業	科目名	電気回路	単位数	2単位
学年・類型	2学年・電子類型		担当教員		
使用教科書・教材	電気回路1 実教出版				

教科の目標 工業科 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

科目 電気回路 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。	電気回路の課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	電気回路を工業技術に活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	<ul style="list-style-type: none"> 電気の種類、特徴を理解し、関連する現象や回路の部品など電気理論を理解する。 直流回路における様々な回路において理論を理解し、諸計算をすることができる。 	1章 電気回路の要素 1節 電気回路の電流と電圧 2節 抵抗・コンデンサ・コイル 2章 直流回路 1節 直流回路 2節 電力と熱 3節 電気抵抗	○	○	○	【知識・技能】 ・各電子部品の違いが分かる。 ・オームの法則を理解して、計算することができる。 ・発熱作用を理解し、電力計算ができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・回路を見てどの電子部品が必要か判断できる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 （授業態度・課題提出）	28
2	<ul style="list-style-type: none"> 静電現象を理解し、コンデンサの合成静電容量を含む回路計算をすることができる。 	2章 直流回路 4節 直流の化学作用と電池 3章 静電気 1節 電荷と電界 2節 コンデンサ 3節 絶縁破壊と放電現象 4章 磁気 1節 電流と磁界 2節 磁界中の電流に働く力 3節 磁性体と磁気回路 4節 磁気誘導と電磁エネルギー	○	○	○	【知識・技能】 ・化学作用を理解し、電池の仕組みが分かる。 ・静電現象を理解し、諸現象の計算ができる。 ・コンデンサの仕組みを理解し、回路計算ができる。 ・磁界の概念を理解し、磁界中の電流に働く力の計算ができる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【思考・判断・表現】 ・必要な静電容量を既存のコンデンサで構成することができる。 ・電流の向きから磁界の向き、または磁界の向きから電流の向きがわかる。 （発問評価・課題提出・定期考査） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 （授業態度・課題提出）	28
3	<ul style="list-style-type: none"> 交流回路の発生と表し方を理解し、交流回路の基本回路や電力の計算ができる。 	5章 交流回路 1節 交流の発生と表し方 2節 交流回路の電流電圧	○	○	○	【知識・理解】 ・交流の発生と表し方について理解している。 ・交流回路の基礎回路の計算ができる。 ・交流回路における各種電力計算ができる。 （発問評価・課題提出・定期考査）	14

		3節 交流の電力		<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 共振周波数からコイルまたはコンデンサの値を求めることができる。 皮相電力、有効電力、無効電力の関係性を理解し、この関係性から電力を計算することができる。 <p>(発問評価・課題提出・定期考査)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 <p>(授業態度・課題提出) ”</p>	
評価方法	<p>各単元において下記の3観点で評価し、総合的に評価をする。</p> <p>①知識理解 発問評価・課題提出・定期考査による</p> <p>②思考・判断・表現 発問評価・課題提出・定期考査による</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 授業態度・課題提出による。</p>		配当時間合計	70	

- 工業高校の特性を活かし、関数電卓等の使用も取り入れた授業を、生徒の実態に合わせて行う場合もある。
 - 各期末考査後の時間などを利用して「集合と論証」「データの分析」を取り扱う。
- ※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

電子回路

教科名	工業	科目名	電子回路	単位数	2単位
学年・類型	2学年・電子類型		担当教員		
使用教科書・教材	電子回路 実教出版				

教科の目標 工業科 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

科目 電子回路 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	電子回路について機能や特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。	電子回路に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	電子回路を設計・製作する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	<p>・電子回路素子の構造を理解し、基本的なダイオードやトランジスタ FET の構造や電気的特性及び機能を理解する。</p>	<p>1章 電子回路素子 1 半導体 2 ダイオード 3 トランジスタ 4 FET 5 その他の半導体素子 6 集積回路</p>	○	○	○	<p>【知識・技能】 ・半導体のp型半導体、n型半導体の構造を理解する。 ・ダイオードの構造、電気的特性を理解し、回路計算ができる。 ・トランジスタの構造、電気的特性を理解し、回路計算ができる。 (発問評価・課題提出・定期考査)</p> <p>【思考・判断・表現】 ・実際の部品を見て、素子の電気的特性が判断できる。 (発問評価・課題提出・定期考査)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 (授業態度・課題提出)</p>	28
2	<p>・トランジスタや FET による増幅の原理を理解し、基本的な小信号増幅回路の動作原理について理解する。</p>	<p>2章 増幅回路の基礎 1 増幅とは 2 トランジスタ増幅回路の基礎 3 トランジスタのバイアス回路 4 トランジスタによる小信号増幅回路 5 FET による小信号増幅回路</p>	○	○	○	<p>【知識・技能】 ・トランジスタの増幅作用について理解する。 ・トランジスタを使用した増幅回路について理解する。 ・各種バイアス回路の計算ができる。 (発問評価・課題提出・定期考査)</p> <p>【思考・判断・表現】 ・バイアス回路において与えられた条件から必要な値を算出することができる。 (発問評価・課題提出・定期考査)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 (授業態度・課題提出)</p>	28
3	<p>・様々な増幅回路の特徴と動作及び原理について理解する。</p>	<p>3章 いろいろな増幅回路 1 負帰還増幅回路 2 差動増幅回路と演算増幅器 3 電力増幅回路 4 高周波増幅回路</p>	○	○	○	<p>【知識・理解】 ・負帰還の原理を理解し、負帰還回路の計算をすることができる。 ・演算増幅器の原理を理解し、演算増幅器の回路計算をすることができる。 ・電力増幅回路の原理を理解し、電力増幅回路の計算をすることができる。 (発問評価・課題提出・定期考査)</p>	14

					<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種増幅回路において与えられた条件から必要な値を算出することができる。 <p>(発問評価・課題提出・定期考査)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な持ち物を持ち参し、授業に前向きに取り組んでいる。 <p>(授業態度・課題提出) ”</p>	
評価方法	<p>各単元において下記の3観点で評価し、総合的に評価をする。</p> <p>①知識理解 発問評価・課題提出・定期考査による</p> <p>②思考・判断・表現 発問評価・課題提出・定期考査による</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 授業態度・課題提出による。</p>			配当時間合計	70	

- ・工業高校の特性を活かし、関数電卓等の使用も取り入れた授業を、生徒の実態に合わせて行う場合もある。
 - ・各期末考査後の時間などを利用して「集合と論証」「データの分析」を取り扱う。
- ※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

電子実習

教科名	工業	科目名	電子実習	単位数	3単位
学年・類型	2学年・電子類型		担当教員		
使用教科書・教材	学校配布の実習プリント				

教科の目標 工業科 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	工業の各分野について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

科目 電子実習 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	電子の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。	電子の各分野に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	電子の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフのまとめ方を理解し、抵抗における直並列回路の電圧、電流の関係を計測し、特性を理解する。 ・抵抗と熱についての関係を理解し、特性を理解する。 	1 グラフの書き方 2 合成抵抗 3 直列回路 4 並列回路 5 抵抗の温度計数 6 ジュール熱 7 計測実習	○	○	○	【知識・技能】 ・正しく計測器を扱うことができる。 ・測定データをまとめることができる。 （発問評価・課題提出） 【思考・判断・表現】 ・電気回路図を見て、自ら電気回路を組むことができる。 ・得られた電気的特性のデータをグラフ用紙に表現することができる。 ・得られたすべての結果から事象を考察することができる。 （発問評価・課題提出） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実習に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 （授業態度・課題提出）	42
2	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体の構造を理解し、ダイオード、トランジスタの電気特性を理解する。 ・ダイオード、トランジスタを使用した応用回路の動作及び特性を理解する。 	8 ダイオードの特性 9 オシロスコープの取り扱い 10 波形整形回路 11 トランジスタの静特性 12 トランジスタの回路設計 13 論理回路 14 電子工作	○	○	○	【知識・技能】 ・正しく計測器を扱うことができる。 ・測定データをまとめることができる。 （発問評価・課題提出） 【思考・判断・表現】 ・電子回路図を見て、自ら電子回路を組むことができる。 ・得られた電気的特性のデータをグラフ用紙に表現することができる。 ・得られたすべての結果から事象を考察することができる。 （発問評価・課題提出） 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実習に必要な持ち物を持参し、授業に前向きに取り組んでいる。 （授業態度・課題提出）	42
3	<ul style="list-style-type: none"> ・電子工作の回路図を読み、どのような動作をするのか読み取ることができる。 ・ユニバーサル基板に回路図通りの回路を組むことができる。 ・プログラムを組んで目的通りの動作をさせることができる。 	15 電子工作 16 PIC プログラミング	○	○	○	【知識・理解】 ・ユニバーサル基板によるはんだ付けの知識を持っている。 ・各種電子部品の取り付け方法を理解している。 ・プログラムの基礎知識を理解している。 （発問評価・課題提出） 【思考・判断・表現】 ・プログラムの不要な部分を見つけ、効率よくプログラミングすることができる。	21

					(発問評価・課題提出) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実習に必要な持ち物を持 参し、授業に前向きに取り 組んでいる。 (授業態度・課題提出) ”	
評価方法	各単元において下記の3観点で評価し、総合的に評価をする。 ①知識理解 発問評価・課題提出による。 ②思考・判断・表現 発問評価・課題提出による。 ③主体的に学習に取り組む態度 授業態度・課題提出による。			配当時間合 計	105	

- ・工業高校の特性を活かし、関数電卓等の使用も取り入れた授業を、生徒の実態に合わせて行う場合もある。
 - ・各期末考査後の時間などを利用して「集合と論証」「データの分析」を取り扱う。
- ※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。

人間と社会

教科名	人間と社会	科目名	人間と社会	単位数	ポイントリザーブ
学年・類型	2 学年		担当教員		
使用教科書・教材	東京都教育委員会著作準教科書「人間と社会」 担当教員作成のプリント、ワークシート				

教科の目標 人間と社会 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、課題に向けて実用な知識及び技能を身に付ける。	社会的現実に照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会とのか関わりから課題を見出し、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、お互いの良さを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

科目 人間と社会 の目標

観点	a : 知識・技能	b : 思考・判断・表現	c : 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自己と実生活や実社会との関わりから新しい課題を自ら見いだしたり、考察に必要な知識を身に付けたり、情報を整理・分析したりすることや、解決のための話し合いを進めたり、自分の考えを効果的に説明したりするなどの技能を身に付ける。	他者との交流や討論の振り返りを通して、これまでもっていた課題を深めたり、新たに情報を集め整理・分析したり、新しい知識を得たりすることによって、意見や考えが深まる。このことによって課題発見、課題解決の力を身に付けさせる。	集団活動の中で、人間としての在り方生き方に対する自覚を深めるとともに、社会の中で自己のよさや可能性を生かす力、前向きに自己の将来を設計する態度を育む。

学習内容と評価の観点

学期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価の観点			単元の（題材）の評価規準	配当時間
			知	思	態		
1	<p>○「人間と社会」を考える。 【知】「人間と社会」の学ぶ目的を理解させる。 【思】「人間と社会」では、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その結果を適切に相手に伝える表現力を身に付けさせる。 【態】「人間と社会」で学ぶ目的を理解し、主体的に行動する態度を育成する。</p>	<p>・「人間と社会」の学習を通して、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	<p>【知】「人間と社会」の学ぶ目的をよく理解している。 【思】「人間と社会」では、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その結果を適切に相手に伝える表現力を身につけている。 【態】「人間と社会」で学ぶ目的を理解し、主体的に行動する態度を身に付けている。</p>	1
	<p>○学習の視点を考える。 【知】「何を大切にして、どのように生きるか」について、自分自身の判断基準を見直すことができる。 【思】他者との関わりを通して自己の判断基準を高めることができる。 【態】判断基準に従って行動ができる。</p>	<p>・「大切にしたいこと」について考える活動を通して、自分自身や他者を理解しようとする態度を養う。</p>	○	○	○	<p>【知】「何を大切にして、どのように生きるか」について、自分自身の判断基準を見直すことができる。 【思】他者との関わりを通して自己の判断基準を高めることができる。 【態】判断基準に従って行動ができる。</p>	1
	<p>○地域社会を築く① 【知】地域で活動する人々の活動内容について理解している。 【思】地域社会とのかかわりについて考察できる。 【態】主体的に地域社会に参画する能力を育成する。</p>	<p>・地域社会の一員であることを自覚し、社会連帯、公正に対する自己の考えを深め、主体的に地域社会に参画する能力を育成する。</p>	○	○	○	<p>【知】地域で活動する人々の活動内容について理解している。 【思】地域社会とのかかわりについて考察できている。 【態】主体的に地域社会に参画する能力が育成できている。</p>	1
2	<p>○「葛飾区産業フェア」への準備 【知】参加に必要なものがなんであるかを理解している。来場者への指導内容を理解している。 【思】効果的に来場者に対し製作手順を説明できる。 【態】参加に必要なものを他者と協力してそろえることができる。</p>	<p>・「葛飾区産業フェア」へ参加するのに必要な準備を行う。</p>	○	○	○	<p>【知】参加に必要なものがなんであるかを理解していた。来場者への指導内容を理解していた。 【思】効果的に来場者に対し製作手順を説明できている。 【態】参加に必要なものを他者と協力してそろえることができる。</p>	1
	<p>○「葛飾区産業フェア」参観 【知】来場者への指導内容を理解している。 【思】来場者が理解し、手際よく製作ができるよう説明ができる。 【態】来場者に対し、率先して対応する態度を養う。</p>	<p>・葛飾区産業フェアに参加し、自校の展示ブースの案内、製作体験指導や会場整理等を行う。</p>	○	○	○	<p>【知】来場者への指導内容を理解していた。 【思】来場者が理解し、手際よく製作ができるよう説明ができている。 【態】来場者に対し、率先して対応している。</p>	6

	○「葛飾区産業フェア」参加後の指導 【知】参加して課題が何かを理解している。 【思】他者と協力して課題解決のための提案ができる。 【態】課題解決のための工夫ができる。	・地域社会を知り、課題対応力を育成する。	○	○	○	【知】参加して課題が何かを理解していた。 【思】他者と協力して課題解決のための提案ができている。 【態】課題解決のための工夫ができている。	1
	○救急救命活動の基礎を学ぶ 【知】救命救急の基本について理解している。 【思】効率よく救命救急ができるか考えることができる。 【態】救命救急を率先して行える態度を養う。	・救急救命活動の基本を学ぶ	○	○	○	【知】救命救急の基本について理解していた。 【思】効率よく救命救急ができるか考えることができている。 【態】救命救急を率先して行える。	2
	○地域社会を築く② 【知】地域で活動する人々の活動内容について理解している。 【思】地域社会とのかかわりについて考察できる。 【態】主体的に地域社会に参画する能力を育成する。	・地域社会の一員であることを自覚し、社会連帯、公正に対する自己の考えを深め、主体的に地域社会に参画する能力を育成する。	○	○	○	【知】地域で活動する人々の活動内容について理解している。 【思】地域社会とのかかわりについて考察できている。 【態】主体的に地域社会に参画する能力が育成できている。	1
	○地域清掃 【知】ごみの分別について理解をしている。 【思】どのように清掃活動を行えば効率よく行えるかを考えることができる。 【態】率先して清掃活動を行う態度を育成する。	・地域の清掃活動を行う活動を通して公共の精神の自己の考えを深める。	○	○	○	【知】ごみの分別について理解をしていた。 【思】どのように清掃活動を行えば効率よく行えるかを考えることができている。 【態】率先して清掃活動を行う態度を育成できている。	
3	○学ぶことの意義 【知】学びについて身近な視点から考えることができる。 【思】話合いを通して、「自律、忍耐」に対する自己の考えを深めることができる。 【態】主体的に学び続けようとする態度を育成する。	・学ぶことの意義を考え、自覚し、自律、忍耐に対する自己の考えを深め、人生を通じて主体的に学び続けようとする能力を育成する。	○	○	○	【知】学びについて身近な視点から考えることができている。 【思】話合いを通して、「自律、忍耐」に対する自己の考えを深めることができている。 【態】主体的に学び続けようとする態度を育成できている。	2
評価方法	観察、提出物					配当時間合計	17

※なお、配当時間は生徒の状況により、必ずしも上記の通りに展開するものではない。